

功勞調書

(職名) 鳥羽市長 (元 鳥羽市教育委員会教育長)

(氏名) 小竹 篤

一、略歴

平成二十九年七月一日 鳥羽市教育委員会教育長に就任

(令和六年十二月三十一日 鳥羽市教育委員会教育長を退任し、令和七年四月二十一日 鳥羽市長に就任)

二、功勞の内容

(一) 鳥羽市教育委員会教育長として家庭・地域と連携した教育環境づくりを進めるとともに、児童生徒数の減少が進む教育環境の変化を踏まえ、学校の適正規模及び適正配置に積極的に取り組み、鳥羽東中学校と長岡中学校、加茂中学校を一つに集約し、新中学校設立に向けて取り組んだ。また、新中学校として活用する鳥羽東中学校校舎等の施設改修工事やその他学校施設の修繕など、子どもたちのより良い学習環境を整備するため大いに尽力した。

(二) GIGAスクール構想の進展によりICT教育を推進する必要があることから、教職員や児童生徒が使用するタブレット端末の整備や教職員の業務負担軽減のため、各小中学校に校務支援システムを導入し、子どもたちを取り巻く教育環境の向上に向け、精力的に取り組んだ。

(三) 鳥羽市の地形を生かした海洋教育の推進や外国語教育の拡充に取り組んだ。また、離島のへき地複式校をはじめ、市内の各学校を精力的に訪問し、各学校の実態把握に努め、支援員の配置や不登校の子どもたちへ学ぶ場を提供し、誰一人取り残さない教育環境を整備するため、教育支援センターの長岡分室を設置するなど、学習環境の維持と改善に尽力した。

(四) 子どもたちの放課後の居場所づくりや郷土学習の推進、子どもの読書活動、生涯スポーツの推進、青少年の育成活動等に精力的に取り組む、地域社会の中で子どもを育てる環境づくりに尽力した。

(五) 国登録有形文化財に登録された旧鳥羽小学校や「海女」の日本遺産認定など、歴史的価値を有する文化遺産の保護や継承に大きく寄与した。

三、榮譽に関する事項
なし

四、その他特記すべき事項
なし

功労調書

一、略歴

	(職名)	(氏名)
平成四年三月	豊橋技術科学大学大学院博士後期課程材料システム工学専攻修了	下古谷 博司
平成四年四月	鈴鹿工業高等専門学校材料工学科助手	
平成十三年四月	鈴鹿工業高等専門学校材料工学科講師	
平成十五年四月	鈴鹿工業高等専門学校材料工学科助教	
平成十九年四月	鈴鹿工業高等専門学校材料工学科准教授	
平成二十四年四月	鈴鹿工業高等専門学校材料工学科教授	
平成二十四年十月	鈴鹿市教育委員 任命	
平成二十四年十一月	永年勤続表彰(国立高等専門学校機構)	
平成二十五年五月	優秀賞教職員提案制度 優秀賞	
平成二十六年十月	鈴鹿市教育委員会委員長 任命(平成二十七年六月三十日)	
平成二十九年四月	平成二十八年度国立高等専門学校教員顕彰分野別優秀賞(学校生活指導分野)	
平成二十九年十二月	教育研究奨励賞	
令和五年四月	鈴鹿工業高等専門学校副校長	
令和六年九月	鈴鹿市教育委員会委員 退任	

二、功労の内容

平成二十四年十月から十年以上の長きに渡り教育委員として在任しており、教育、学術及び文化に関する深い識見、教育部門での秀でた専門性に基つき、教育行政の推進に尽力されるとともに、平成二十六年十月から平成二十七年六月までは教育委員会委員長を務められるなど、次の通り尽力した。

- (一) 社会の変化に伴う教育動向を見据え、平成二十七年四月の合川小学校への小規模特認校制度導入や令和元年四月の教育 ICT 環境の整備完了、コロナ禍における令和三年九月の市内全小中学校でのオンライン授業開始などに尽力した。
- (二) 幅広い視点から、鈴鹿市教育大綱、鈴鹿市教育振興基本計画の策定及び教育委員会活動の点検・評価において、各種提言を行い、教育行政の推進に大きく寄与した。
- (三) 安全で快適な教育環境の充実を確保するために、平成二十六年九月の平田野中学校移転建築、平成二十七年五月の公立中

学校給食開始、平成二十八年度十二月の公立小中学校全校への普通教室等空調整備事業開始、令和四年九月の学校給食費の公会計化開始に尽力した。

(四) 平成二十七年四月の鈴鹿市立図書館江島分館の開館により、生涯学習の機会の充実に貢献した。

三、栄誉に関する事項

なし

四、その他特記すべき事項

なし